

I

事業概要



情報紙の発行等で、保護者や地域の方から声をかけられることも多くなりました。私たちにできることは何かをみんなで話し合い、子育て家庭を応援しています。
(家庭教育支援チームの感想より)

I 事業概要

(1) 事業実施に至る背景

学習機会の提供を中心とした平成19年度までの取組では、「学習に参加できない」等の状況にある親への支援については課題として残された。

また、平成19年度に実施した「家庭教育支援に関する実態調査（青森県家庭教育推進協議会）」の結果から、「子育ての悩みは多様化している」、「子育ての責任を家庭で負う傾向にあり、地域とのつながりが弱い」という親の状況と、「ほしい学習や情報は、子育ての悩みを解消する方法である」、「家庭教育支援においても学校の位置づけが高い」という支援の要望がわかった。

これらのことから、今後の家庭教育支援では、「子育ては地域全体で支え合うものであることを家庭や地域が理解する」、「親同士や地域とのつながりをつくっていく学習内容を企画する」、「親と学習・情報、地域の接点としての学校と連携していく」を重視した取組が必要と考えた。

そこで、平成20年度は地域と家庭のつなぎ役としてこれまで養成してきた家庭教育支援者を中心とする「家庭教育支援チーム」を設置し、積極的に親や地域とのつながりを構築しながら、身近な地域できめ細かな支援を試みることにした。

平成20年度の活動では、家庭教育支援者と専門家で構成する「家庭教育支援チーム」という枠組みは、信頼や情報の確保、連携の促進、支援内容に幅が出るといった成果があった。また、親との関係構築のために主に学校との連携を進めた結果、「家庭教育支援チームの認知度」は約51%であり、親や地域に受け入れられつつあった。

平成21年度に残された課題は、親や地域とのつながりを構築した後どのような家庭教育の支援を提供できるのかである。地域でのきめ細かな支援にはどのような手法があり、どのように届けられるのか。「訪問型家庭教育支援チーム」を設置し、平成20年度の取組をもとに、より積極的に関係構築を進め、支援手法の開発に取り組むことにした。

(2) 訪問型家庭教育支援チームとは

「訪問型家庭教育支援チーム」は、これまで養成してきた家庭教育支援者や保健師等の専門家等、地域の人5～6人程度で構成する。公民館や社会教育施設を活動拠点とし、家庭や学校、企業等に出向き、親や地域との良好な関係を構築しながら、家庭教育に関する情報や学習機会の提供、相談対応を行う。事業名称の変更に伴い、より積極的に向いて活動する「訪問型家庭教育支援チーム」となったが、親や地域への周知から各地域においては平成20年度に引き続き、「家庭教育支援チーム」の名称で活動している。以下、本書における「家庭教育支援チーム」とは、「訪問型家庭教育支援チーム」（以下「チーム」という。）のことである。

(3) チームの活動

今年度のチームの活動について、主な訪問先、支援のコンテンツ、その成果についてまとめてみた（各チームの詳しい活動については、P5からの活動事例を参照）。

| 訪問先 | 関係づくり | 支援のコンテンツ | 成果 |
|-------------------------|---|--|--|
| 小学校 (中学校、幼稚園、保育園も同様) | <p>【良好な関係を築くために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な訪問 ・情報収集 ・親のニーズの把握 ・提案、話し合い ・訪問先のニーズに応える ・情報の共有 <p>チームを信頼してもらう</p> | <p>【親へのアプローチのために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報紙の作成と配布 ・学校行事での紹介 ・学校行事への参加 <p>親にチームを知ってもらおう</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・すべての親に ・チームの認知度約65% ・情報紙・行事での認知度が高い |
| | | <p>【きめ細かな支援のために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報紙の作成 | <ul style="list-style-type: none"> ・すべての親に ・情報紙の満足度約86% |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・参観日等行事での託児 ・参観日等行事での学童保育 | <ul style="list-style-type: none"> ・一時預かりの満足度約92% ・親同士、先生との関係づくり |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・学習会・交流会 (家庭のしつけ等の内容) (リフレッシュできる内容) (親同士が話し合う場) (子どもと一緒に体験する場) | <ul style="list-style-type: none"> ・学習会の満足度約88% ・交流会の満足度約92% ・学習会、交流会への参加率向上 ・親同士、親子の関係づくり |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・相談機会 (ついでのちょっとした相談) (希望する場所での個別相談) (家庭訪問による相談) (専門機関への紹介) | <ul style="list-style-type: none"> ・相談対応の満足度約94% ・子育てに不安がある親に |
| | | <p>..... 保護者・関係機関の要望</p> | <p>..... チームの支援</p> |
| 保健福祉行政 | | <p>【より良い支援のために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集 ・相談対応の相談・研修 ・専門家による相談 | |
| その他の機関・団体・企業 | | <p>【みんなで支援をするために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集 ・支援の企画運営のための協力 ・情報共有のための会議等 | |

..... 保護者・関係機関の要望 ——— チームの支援 - - - 関係機関の連携、協力

(4) まとめ—成果と課題—

今年度はより積極的に支援をするための手法として「訪問」に取り組んできた。その成果と課題は以下のとおりである（支援の満足度等についてはP55からの調査結果を参照のこと）。

①訪問すること

チームの活動から、「訪問すること」には3つの効果があることがわかった。一つは、親や子どもに関する情報収集や状況把握ができること。二つ目は、訪問の継続により良好な関係づくりができること。三つ目は、その効果に基づいたきめ細かな支援（特に相談対応）ができることである。つまり、情報収集を目的とした訪問があり、そこで関係が築かれ、その先にきめ細かな支援があるというステップとなる。

②訪問の継続による良好な関係づくり

親にとって学校は位置づけが高い機関であることから、学校への訪問とその関係づくりは、親にチームを知ってもらい、信頼してもらう上で大変有効であった。多くのチームは、学校を通じた情報紙の配布や学校行事での紹介をきっかけに、親との関係づくりを図っている。また、定期的かつ継続的に訪問することにより、少しずつ認知され、学校の要望や親の支援ニーズを把握し、それらに対応する提案が学校や親との信頼関係を深めていった。

③訪問を生かしたきめ細かな支援のコンテンツ

多くのチームは、情報紙による情報提供、学習会や交流会の開催、相談対応を行っている。これらは従来の支援方法と変わらないように見えるが、訪問によって得られた情報や要望に基づき工夫されている。例えば、参観日等での託児は、学校と親の双方の要望を満たしているし、学習会や交流会では、親が受け身ではなく主体的に関われる内容や親同士がつながりをもてることを重視している。また、家庭や希望する場所での相談は、信頼関係が深まるにつれて増えてきた。これらの支援はいずれも親の状況に即したきめ細かな対応であり、満足度も高かった。

④成果—訪問がもたらしたもの

訪問によって築かれた小学校との良好な関係は、学校内における家庭教育支援の場をつくり出し、学齢期の子どもを持つ親への支援を生み出した。今後、同様に保育園や幼稚園、中学校との関係をつくることにより新たな支援の可能性がある。

親との良好な関係は、「子どもや家庭を見守ってくれる人たちが地域にいるという安心感」を与え、チームを接点に親と地域とのつながりが構築されつつある。

福祉行政との関係は、チームによりよい支援のための助言や研修を与え、地域の関係団体との関係は、情報提供や学習会の協力者を得ることにつながっている。

⑤今後の課題

新たな手法は、親の状況に即したきめ細かい支援を継続していく中から生まれると思われる。その中で新たな課題が生まれ、課題に対応するためにチームが絶えず資質の向上を図ることが、親の満足度をより高めていくと思われる。つまり、チームの活動の持続性は満足度や安心感と密接に関係することから、今後は、チームの資質向上が図られる仕組みをつくるとともに、チームを支える地域の人たちとのつながりを強固にし、良好な関係に立った持続した取組を行うことが重要である。